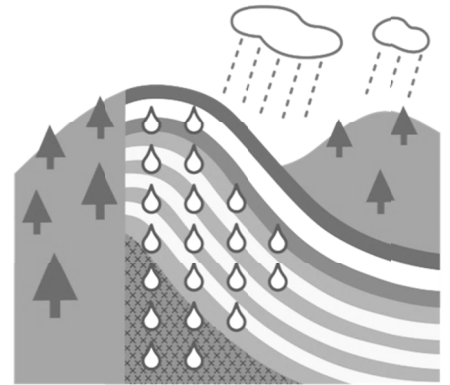


環境問題



福島第一原発事故での原発安全神話の崩壊、続く放射能安全神話の発生。「環境問題は専門家にまかせておくしかない地球レベルの問題だ」という“常識”も崩壊した。物事を根本から問い直し、足元から解決するための知恵と経験を学ぶなかで、身の周りで何か問題が起こったら、と想像できる感性を育てると共に、みずからの暮らしを守るために行動に移す勇気を培います。現場の声に耳を傾け、マスコミには載らない情報に触れることで、さまざまなマインドコントロールを越えて、自分の生活そのものを再点検しながら深く考え、足元から暮らしと環境を変えていくきっかけをつかむ生活者となることを目指します。

日時：4月15日(金)～7月29日(金)

各回 10:20～11:50 【全15回】

場所：山口県立大学 3号館 C11 教室

講師：国際文化学部 教授 安溪遊地

受講料：1回 500円 部分受講可

会場案内図



- 13回以上を受講された方には、「山口県立大学公開授業修了証書」を授与いたします。
- 詳しい日時と内容は裏面をご覧ください。



お申込み・お問合せ

◆TEL・FAX またはハガキでお申込みください。

〒753-8502 山口市桜畠 3-2-1

TEL 083-928-3495

山口県立大学地域共生センター共生教育部門 宛

FAX 083-928-3021

■講義内容

回	日時	テーマ	内 容
1	4/15 (金)	環境問題のほとんどは人権問題です -この講義の進め方	環境問題といわれるもののほとんどは人権問題です。安心して暮らせる平和な環境を守るための身近な地球人たちの真剣な、ときに痛快なチャレンジを紹介します。
2	4/22 (金)	想定されていた地震・津波・原発災害 -天災から人災へ	「想定外だった」を繰り返す電力会社や政治家たち。しかし、神戸大学の石橋克彦教授(地震学)は1997年に現在福島第一原発で起こっていることを恐ろしいほど正確に予測していた。地震は止められない天災だったが、その後起こったことの多くは人災だったのである。
3	5/6 (金)	携帯電話は安全か？ 電磁波のことを知っていますか	放射線から携帯の電波にいたるまで、電磁波との正しいつきあい方を物理学の専門家からしっかり学ぶ。それを手がかりに、なぜかスマホメディアが報道しないことにも踏み込んで考えてみたい。
4	5/13 (金)	アフリカからのメッセージ -人類は環境を破壊して滅びる生きものではない	コンゴ民主共和国の森の村で暮らした日々を受けたショック。ゴミの出ない暮らし、地下資源にほとんど頼らないで自然の資源を恵みとして営まれる循環的な暮らし。そのなかで味わったこと、学んだことをお伝えしたい。
5	5/20 (金)	グローバルからローカルへ -「半農半X」の楽しみを生きる	アフリカでめざめて放浪の旅をやめ、小さな農業をはじめた、山口県田布施町の大下充徳(あつお)さんの物語に耳を傾けよう。本物をお菓子や幼稚園や学校をつくるという仕事に取り組み、ワクワクを伝えます。
6	5/27 (金)	あったか村においてよ -人の健康・地域の健康・地球の健康を守る (阿武町・白松博之)	救世に囲まれて合併しない道を選んだ阿武(あぶ)町。そこには「あったか村」という地域おこしの拠点があります。いなかには都市が忘れてしまった大切なものがある。それをみつけにきて、その知恵を身につけよう。都会的なライフスタイルからの乗り換え駅への案内。
7	6/3 (金)	先住民族の教え -アイヌ民族と沖縄・八重山の人々の世界観に学ぶ	自然の中にたくさんの神様たちがいる。「隣のトロ」や「ものけ姫」の世界にはモデルがあります。自然の恩恵への感謝を常日頃忘れないようにという南の島々やアイヌ民族の教えに含まれる、未来への遺産を味わい、それをとりもとして身につける練習をしましょう。
8	6/10 (金)	スペイン・ナバラ自治州の持続可能性への挑戦 -わずか20年で70%電気エネルギー自給を実現	山口県と姉妹提携しているスペインのナバラ州では、グリーン・エネルギーとグリーン・ツーリズムの取り組みが盛ん。「持続可能性」を自治政府の政策の柱に据えたとき、地域がどこまで変わらうかの例として2005年に5ヵ月滞在してくわく見聞した内容を中心に紹介。
9	6/17 (金)	市民科学者のできること -上関原発予定地の“奇跡の海”の生物多様性を守る	瀬戸内海の上関原発の予定地は、じつは日本の浅海では最高の生物多様性ホットスポットだった！そのことを無視して押し切ろうとする行政主導の委員会の中で苦闘する市民科学者とともに歩んできた市民たちのこれまでの取り組みを紹介します。
10	6/24 (金)	化石燃料から再生可能エネルギーへ -地球1個分の暮らし	エネルギーが足りない、資源が足りないとよく言われる。しかし、もう汚してもいい環境がなくなってしまった、というエントロピーの問題こそが、地球環境問題の最大の焦点だろう。この授業を、再生可能ということの基本から考え直す機会にしたい。
11	7/1 (金)	知る・愛する・守る -アフリカの森と屋久島の森を守る人々との交流	1978年からコンゴ民主共和国やケニアに通っている安楽遊地・安楽貴子の研究と地元の人々との交流を紹介。内戦や貧困など、どのような困難の中でも、希望を失わず自然との共存に生きる人々の生き様に学ぶ。
12	7/8 (金)	安心安全の暮らしのために(1) -本当にこれを食べてもいいのですか？	それはほんとうに安心して食べられるものか、例えば10週間も腐らないポテトチップス。例えば半年もかびないレモン。例えば…。食べ物から暮らしを見直すための提案。
13	7/15 (金)	安心安全の暮らしのために(2) -身の回りのいのちの声に耳をすます	人間の手が加わった自然である田んぼや里山にあたりまえにいた生き物たちが全国で絶滅しています。命の音が聞こえないことが最大の危機かも。そして、里山の自然が豊かに残る山口県のすごさに気付かないことも。
14	7/22 (金)	黙っていてあとで後悔するのはいやですね -いま足下からできること	県産財の産直で建てた価格破壊の自然住宅づくりと「第三種兼業農家」としての四季の暮らし。そして、そこに突然起こったごみ処分場騒動や目の前の携帯電話中継基地局建設の顛末。
15	7/29 (金)	だまされないために -知るは難く行は易し	ありもしないことを恐れたり、できもしないことを信じているから不安になるのです。いろいろな情報の海を泳ぎ切る力をつけましょう。

■受講申込書 平成28年度前期公開授業「環境問題」を受講します。

お名前 (ふりがな)	
ご住所	〒
電話(日中連絡のとれるもの) FAX	